

女性なら誰しも注意したい「子宮がん」

子宮がんは、若い人でもかかる可能性があります。
症状の有無にかかわらず定期的に検診を受けましょう。

「子宮頸がん」と「子宮体がん」の2種類がある

子宮のがんには、子宮の入り口にできる「子宮頸がん」と、子宮の奥の内膜にできる「子宮体がん」の2種類があります。子宮頸がんは20歳代から増加しつつあり、子宮体がんは40歳代後半から50歳代に多く現れます。以前は子宮頸がんが子宮がんの大半を占めていましたが、近年は子宮体がんが3～4割を占めるようになってきました。その原因としては、食生活の欧米化や女性ホルモンバランスの変化などが関係しているといわれています。

子宮頸がんと子宮体がん、それぞれ要因が異なる

「子宮頸がん」の主な原因は、性交によって感染するヒトパピローマウイルス（HPV）といわれており、性交経験があれば誰でも感染する可能性があります。感染してもほとんどは一過性で自然に排除されますが、感染が持続すると一部前がん病変となり、子宮頸がんを発症する恐れがあります。HPV感染を予防するワクチンもありますが、早期発見のためにも定期的な検診が大切です。

「子宮体がん」は妊娠・出産経験がない人に多いのが特徴ですが、ほかにも太り過ぎると子宮体がんに関連するエストロゲンが活発に分泌されるため、発症リスクが高くなります。子宮体がんは、不正出血が病気のサイン。ごく初期の段階から出血するため、出血後すぐに受診をすれば早期に発見できます。

その他の子宮に関する疾患

子宮の疾患の一つに「子宮筋腫」がありますが、これは良性の腫瘍で、女性の病気としては最も多いといわれています。筋腫があっても6～7割は無症状ですが、筋腫の大きさやできる場所によっては月経痛、過多月経や貧血、不妊症や流産の原因になる場合もあります。ただし、閉経すると次第に小さくなっていきます。

また、子宮内側にある子宮内膜と似た組織が、卵巣など子宮以外の場所で増殖する「子宮内膜症」もあります。月経と同じように出血を繰り返し、炎症を起こしたり、周囲の臓器と癒着して痛みや不妊などを引き起こします。見過ごされがちですが、気になる症状がある人は医療機関を受診しましょう。

ジェイティービー健康保険組合では、年に1回受診できる子宮がん検診の補助を実施しています。

対象となるのは、被保険者・被扶養者ともに20歳以上の方です。

子宮がん検診についての詳細は、[こちら](#)からご確認ください。

<参考資料>

- ・国立研究開発法人国立がん研究センターがん情報サービス「がんの冊子 子宮がん」
- ・国立研究開発法人国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」年齢階級別罹患率（2019年）